

「第1回なすかしの森 ファミリーチャレンジ～麴（こうじ）～夏編」
令和2年8月22日（土）～ 8月23日（日） 1泊2日

【目的・趣旨】

城下町の核として発展してきた白河市の中心市街地には、現在でも歴史的・文化的資源が多く残っています。その中でも醸造業（味噌・醤油・酒造）は6つの建物群が残っており、現在でも塩麴、甘酒などが作られています。今年度は、この発酵食文化としての「麴」をテーマに四季折々のプログラムを提供します。

第1回目は、家族で水を楽しむ活動を通して、心身のリフレッシュを図るとともに、白河の発酵食文化を体感します。

【連携先】

・特になし

【募集対象／実績】

《募集対象》 幼児、小学生又は中学生を含む家族（福島県在住） 5家族20名程度

《実績》 4家族14名申込、3家族9名参加（大人5名、小学生2名、未就学児2名）

【プログラム概要】

【1日目】 令和2年8月22日（土） 天候：曇り時々雨

13：00 集合・受付 [エコルーム2]

13：30 出合いのつどい [エコルーム2]

14：00 竹水鉄砲作り&ゲーム [エコルーム2・わくわくひろば]

竹製の水鉄砲を作り、それを使ったゲームをした。

16：15 インフォメーション [エコルーム2]

17：20 夕ごはん [レストラン]

18：30 星空ボンファイヤー [ピロティ]

なすかし周辺に落ちている木の枝などを使って火付け体験をした。

また、絵本の読み聞かせも行った。

20：00 お風呂 [浴場]

22：00 就寝 [各宿泊部屋]

【2日目】 令和2年8月23日（日） 天候：曇り時々晴れ

07：20 朝ごはん [レストラン]

09：00 塩麴づくり [エコルーム2]

通常の作り方だと1週間程度要するが、炊飯器の保温機能を用いて、1時間程度で完成させた。

09：45 ヤマメつかみ [わくわくひろば]

自分たちで食べるヤマメを手づかみし、下処理を行ったあと、塩麴に漬け込んだ。

漬け込んでいる間は、竹水鉄砲で遊ぶなど自由な時間を過ごした。

その後、塩麴に漬け込んだヤマメを焼いて食べた。

14：15 わかれのつどい [エコルーム2]

14：45 解散 [エコルーム2]

【成果】

- ・竹水鉄砲の作り方を出来る限り簡単にし、幼児でも自分の力で作れるように工夫したことによって一人一人が自分だけの竹水鉄砲を製作することができた。
- ・参加者の子どもたちの年齢層が広がった（幼児～小学校高学年）が、ゲーム内容を分かりやすく簡単なものにする事で、どの年代も同じゲームを通して交流することが出来た。
- ・あらかじめ「保護者の方もプログラムに可能な限り参加してほしい」と伝えることによって、全員が参加者となり、濡れるプログラムの際も傍観者になる保護者はいなかった。
- ・星空ボンファイヤーの際、それぞれの家族が火起こしに挑戦し、火が燃える様子や火の温もりを間近で感じる事ができた。
- ・本来1週間程度かかる塩麴づくりを、炊飯器の保温機能を使うことで、30分で完成させた。
- ・ヤマメつかみでは、つかまえるところから、下処理し、食べるまで一貫して行うことで、楽しい部分から命に感謝する部分まで全てを感じてもらうことが出来た。
- ・参加者とともに活動プログラムを行うだけでなく、準備や後片付けまで一緒に協力して行うことが出来た。
- ・高校生ボランティア3名がそれぞれの班に入ることで、一緒に遊んでくれるお兄さんお姉さんが常にそばにいる状況を作ることができ、子どもたちの笑顔を引き出すことが出来た。

《参加者の声》

「火や魚を扱うイベントがなかなか出来なかったので、大変楽しく過ごせた。」

「親子同士チーム戦他、協力することが出来た。」

「普段の日常では出来ないことを一緒に協力してやれた。」

「色々な企画、それぞれの企画に子どもの成長に繋がるような企画をありがとうございました。」

「スタッフの方、高校生のボランティアの方にとっても親切で丁寧に対応していただき大変感謝しております。」

【課題と方策】

- ・全体的に活動プログラムの難易度を下げ、幼児でも一から体験出来るよう工夫したが、小学校高学年以上の子どもたちには物足りない部分があったかもしれないと感じる。
このような年齢層が広い事業では、同じものを作るにしても、各々に合わせたレベルの作成方法を準備するなど、早く終わってしまう参加者に対する対応を考えておく必要がある。

国立那須甲子青少年自然の家【作成】事業推進係：藤本 樹

